

〈編集後記〉

石川啄木といえば、「一握の砂」しか思い浮かばない私にとって啄木＝歌人・詩人としか捉えていませんでした。今回の論文を読むにつれて正に自分の厚顔無恥に恥じ入るばかりであった。啄木が大逆事件との関連から社会主義思想にひかれていたのではと理解していたが、内田所員の啄木への試みは、啄木が歌を作るのは満たされない生活を営んでいると思う自分を直視するときと位置づけ、当時の清朝末期の中国や安慶事件の背景から啄木の内面からほとぼる衝動を分析しようとするものである。この点を踏まえて今一度「一握の砂」「秋風記」を読んでみたいと思う。

(KM)

神奈川県川崎市多摩区東三田 2 丁目 1 番 1 号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 内田 弘

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前 2-10-2 電話 (03)3404-2561
